

【情報公開文書】

2021 年 8 月 17 日作成

Ver.1.00

研究課題名	腎細胞癌患者における Largin の臨床病理学的意義
所属（診療科等）	長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科
研究責任者	宮田 康好
研究機関	この研究は長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科のみで実施します。
研究期間	2021 年 9 月 21 日～2027 年 12 月 31 日
研究目的と意義	本研究では、腎細胞癌患者における「Largin（ラージン）」の臨床病理学的意義を検討します。ラージンとは、正常細胞の大きさを制御する蛋白の 1 つですが、私達はラージンが癌細胞の悪性度とも関連している可能性を考えています。そこで、今回の研究では、腎細胞癌患者の癌組織に発現しているラージンの量を評価し、それらの結果と、腎癌細胞の増殖や浸潤、さらには各種治療の効果や予後との関連を解析します。 本研究により得られた情報は、今後の腎細胞癌における、癌細胞の増殖・浸潤機構の解明や治療効果の予測、さらには、従来とは異なる新たな薬の創薬へ利用できる可能性があります。
研究内容	●対象となる患者さん 2008 年 1 月 1 日から 2021 年 7 月 31 日の間に長崎大学病院泌尿器科・腎移植外科で腎腫瘍に対して根治的手術を行い、病理組織学的に腎細胞癌と診断された 20 歳以上の患者さん。 ●利用する情報／試料（検体） 治療経過や血液・画像検査の結果は、2027 年 9 月 30 日までの情報を使用します ・患者背景：性別、生年月日 ・治療経過 ・血液学的検査：白血球数・分類、ヘモグロビン濃度、血小板数 ・血液生化学検査：カルシウム、クレアチニン、総蛋白、アルブミン、C 反応性蛋白 ・画像検査：CT、MRI、骨シンチ検査 ・病理組織診断の結果 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。 ●研究の概要・方法 当院に保管されている過去の病理組織標本を用い、癌組織におけるラージンの発現の有無や程度を調べます。そして、この発現と癌細胞の異型度、病

	期、治療経過との関連を調べます。また、手術の後に全身治療を受けた患者さんについては、ラージンの発現と全身治療による効果との関連も調べます。今回の研究では、遺伝子に関する測定や研究は行いません。 なお、本研究への情報/試料（検体）の利用を断られても、その後の診療において不利益はありません。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：宮田 康好 長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科 住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7340 FAX 095（819）7343 【ご意見、苦情に関する相談窓口】 （臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）